

中堅・中小の世界戦略のエンジンに

モノづくり現場で慢性的に不足している理工系人材を、海外で確保する取り組みが始まっている。製造業向け総合人材サービスのテクノスマイル（福岡県宮若市）は中国で大学生を採用し、日本企業に派遣する。10月1日付で8期生19人を国内自動車部品メーカーに配属した。今後はタイやミャンマーにも広げるといふ。アジア人技術者が、中堅・中小企業の世界戦略のエンジンになりそうだ。

テクノスマイルが、天津市の現地法人を通じて採用した中国人大学生の出身大学は天津大学、天津科技大学などの有名校。ほぼ全員が機械設計や情報処理などを学んだ。多くが日本語能力試験「N2」も取得済みだ。

社説

アジアから理工系人材

同社は現地でも年間5回程度の日本企業説明会を実施している。500人程度が参加するが、中でも日本行き希望の強い30〜40人を選抜し、1年間無料の日本語習得クラスを受講させる。

最終的に20人程度を同社の社員として採用し、派遣先に配属する。国内の技術者不足を補うほか、派遣先で採用され、中国やアジア諸国で活躍する基幹人材になることも期待できる。

学生は「日本のアニメが好き」「村上春樹のファン」など無邪気だ。出身地は吉林省や黒竜江省、新疆など幅広い。中国は戸籍が都市部と農村部に区分けされており、社会保障や教育の格差がある。農村部出身者には

制限が加えられることも多く、優秀な人材が国外流出する一因とされている。「広い世界を見たい」という憧れも動機の一つだ。

数人を受け入れた中部地方の自動車部品メーカーは「日本人学生を中堅・中小企業が確保するのは難しい。中国人は真面目で勉強熱心で、気質も日本人に似ている。（将来は）海外事業の管理・監督者に起用したい」と期待する。

外国人労働者というと単純労働を想像しがちだが、こうした例のように大卒の高度技術者の活用が広まれば、特に海外展開を目指す日本の中堅・中小企業にとってチャンスとなる。少子化とグローバル化の波は、製造業の雇用形態まで変えようとしている。